

保育内容「表現」におけるリトミックの実践 —授業改善に向けての振り返り—

小倉 隆一郎*

Practice Implementing Eurhythmics to Facilitate “Expression” in Early Childhood Care and Education: Reflecting on Lesson Improvement

Ryuichiro OGURA

要旨 筆者が担当する「保育内容B」の授業は領域「表現」の内容を含んでいる。本論では授業の後半で扱うリトミックの演習について、授業の改善を目的に、今年度の授業内容を振り返った。学生にはリトミックの授業の始めに、演習のねらいとして「子どもたちにリトミックの楽しさを伝えること」を説明した。授業中の学生の活動を観察するとともに、最終授業後にリアクションペーパーを配布し、学生の取り組みや演習のねらいに対する達成度・反省点について調査を行った。その結果、馴染みのない曲は始めに教師が歌って聴かせる必要があること、指導者は子どもたちを注意深く観察すること、セッションの時間を有効に使うために時間の使い方・リハーサルの必要性を説くなど授業改善のための様々な手掛かりを得ることができた。

キーワード：保育内容「表現」 リトミック 幼児教育 授業改善 振り返り

1. 研究課題

筆者は「保育内容」の授業を担当して、今年度で4年目に当たる。2014年度から2016年度までは、領域「表現」と「言葉」を、2017年度は「表現」を担当している。昨年度、「表現」にかかわる授業内容は、ペープサート・パネルシアターの教材研究、オペレッタ、そしてリトミックの3つを柱として構成した。そこで、2016年度は、「保育内容」の授業内容を改善することを目的にオペレッタを取り上げて、「子どもに分かりやすい表現」をねらいとした台本・小道具の制作、および演出を工夫した。本論では、リトミックについて授業内容を精査するとともに、学生が授業後に記入したリアクションペーパーの記述から改善の糸

口をみつけることが研究課題である。

2. 「保育内容」の授業について

現在、本学の教育学部心理教育課程では、保育内容の5領域を「保育内容A」「保育内容B」「保育内容C」の3科目で担っている。

表1 保育内容の授業

科目名	領域	教員	コマ数
保育内容A	総論 人間関係	イ	15
保育内容B	言葉 表現	ロ ハ	7 (+1)* 7 (+1)
保育内容C	環境 健康	ニ ホ	7 (+1) 7 (+1)

*コマ数欄の(+1)は共通オリエンテーションの1コマである

* おぐら りゅういちろう 文教大学教育学部心理教育課程

担当教員について、2016年度までは保育内容ABCの3科目ともに、それぞれ一名の教員が担当してきた。2017年度からは表1に示す通り、「保育内容B」と「保育内容C」については2名で担当している。したがって、今年度からは5領域それぞれについて専門の教員が受け持つことになった。保育内容の受講生は、クラスI 59名、クラスII 56名の2クラスに分かれている。「保育内容B」は兼任講師口と筆者ハの2名が同時間帯で表2のように授業を行った。

表2 「保育内容B」のクラス

授業回	1回	2～8回	9～15回
クラスI	教員ロハ	教員ロ	教員ハ
クラスII	教員ハロ	教員ハ	教員ロ

筆者が担当する「保育内容B」はコマ数が半減したが、領域「表現」のみを扱うことになったため、「言葉」の内容を削除して全体の授業内容を組み直した。その結果、1. 研究課題で述べた「表現」にかかわる3つの授業内容の内、オペレッタを取り止め、ペープサートとパネルシアターの教材研究、そしてリトミックの2つを柱として構成した。

以下、「保育内容B」授業の概要である。
[対象学生] 文教大学心理教育課程3年次生

表3 「保育内容B」の授業内容

回	内容
1	オリエンテーション 保育内容B
2	「表現」とブレインストーミング
3	ペープサート・パネルシアターの準備
4	ペープサート・パネルシアター演習①
5	ペープサート・パネルシアター演習②
6	リトミックの準備
7	リトミック演習①
8	リトミック演習②

※斜体は授業内容が演習であることを表す

表3のオリエンテーションは、表1の共通オリエンテーション(+1)で、「言葉」を担当する教員ロと合同で行う。その後、2つのクラスを教員ロと教員ハが7コマずつ担当する。したがって「表現」「言葉」のコマ数はそれぞれ7コマとなり、両分野とオリエンテーションを合わせて15コマとなる。次章で、リトミック演習①②における学生の実践内容の一部を紹介する。

3. リトミックの実践

リトミックの実践は、7コマ中の3コマ、表3の6回～8回を使って実施した。以下、リトミック実践の内容である。

[時期] 2017年7月7日、14日、21日

[ねらい] リトミックの実際のセッションを行うことにより、音と身体の動きを体得する。先生役となった学生は、子どもたちにリトミックの楽しさを伝えることをねらい・目標とする。幼児が音楽に沿った身体運動を行うには、音をよく聴く集中力が必要である。そのためにはリトミックに積極的に参加する意思が大切であろう。子どもたちは楽しい学びには自ら参加する。幼稚園教育要領(文科省2017)第2章および保育所保育指針(厚労省2017)第2章-3の「表現」の文章には「楽しむ」や「楽しさ」などの文言が10回使われている。これは、子どもたちが表現活動に「楽しく」取り組む大切さを繰り返し説くものである。大谷はロールプレイングを行う学生がセッションに積極的に参加する要件として「～身体表現に対して抱く『恥ずかしい』という気持ちを軽減させることであり、次いで身体表現に対する積極性を引き出すために必要な『楽しい』という気持ちをもたせることである」をあげている(大谷2015)。

[授業の方法] 6回目の授業で、リトミックの定義、エミール・ジャック＝ダルクローズとリトミックの歴史、日本への導入と幼児教育への活用について概要を話した後、一例として『足じゃんけん』を使ったリトミックのセッションを全員で行った。

譜例1 『足じゃんけん』楽譜と動きの説明
(作詞・作曲, 動きの創作は筆者による)

- ①歌とともに「グー・チョキ・パー」で足じゃんけんをする
- ②ペアまたはグループで①の後②を行い「ボン」でじゃんけんする
- ③皆で、①の後③を行い、「グー」「チョキ」「パー」で自由ポーズ

次に、59名のクラスを9つのグループに分け、それぞれの学生グループに、即時反応、基礎リズム、音の響き等のリトミックのねらいに即した課題を提供した。残りの30分間、提供した課題により、リトミックの動きをグループで検討し、実際の流れを練習した。

7回目の授業では、5つのグループ、8回目は4つのグループを指定し、各グループの学生が指導者、それ以外の学生を幼児とみだてたロールプレイングによるリトミックのセッションを行った。

[学生に提供した課題の一例]

1つのグループに3～4つのリトミック課題を提供した。下にグループ1に提供した課題を例示する。

リトミック課題1：「おちたおちた」

ねらい：2拍子に合わせる、創造性の育成

譜例2 「おちたおちた」

- ①譜例2の2拍子の拍に合わせて、両手を膝-頭-膝-頭～に当てる動作を繰り返す。
- ②リーダーは5小節目で「リンゴ」「雷」「げんこ

つ」等の言葉を言う。

- ③7小節目で、②の言葉に沿ったポーズをする。ポーズは子どもに考えさせる。

リトミック課題2：「あんたがたどこさ」

ねらい：即時反応の育成
床にフラフープを置いておく。

- ①歌いながら歩く。
- ②歌って歩きながら、歌詞の「さ」のタイミングでフープの中に片足を入れる。

リトミック課題3：「げんこつやまのたぬきさん」

ねらい：速度変化への対応、心唱の育成

- ①「げんこつやまのたぬきさん」の手遊びをする。
- ②スピードを変化させる。
- ③歌詞の一部を歌わないで、動作のみで手遊びをする。
- ④次第に歌わない歌詞を増やして、最後はすべて動作のみで手遊びをする。

リトミック課題4：「おお牧場は緑」

ねらい：4拍子に合わせる、即時反応の育成

- ①「おお牧場は緑」を歌う。
- ②右手で左肩を8つ、左手で右肩を8つ叩く。
- ③右手で左肩を4つ、左手で右肩を4つ叩く。
- ④右手で左肩を2つ、左手で右肩を2つ叩く。
- ⑤右手で左肩を1つ、左手で右肩を1つ叩く。
- ⑥手拍子1つ、最後の休符で「ホイ」
- ⑦列になって前の人の肩をたたく。「ホイ」で反対向きになる。
- ⑧タンブリンの合図で反対向きになる。

[学生の実践内容]

クラスI・グループ1の学生7名は、上の課題から「げんこつやまのたぬきさん」と「あんたがたどこさ」を選択した。「げんこつやまのたぬきさん」では、通常の手遊びを行い、最後にじゃんけんをした。3回実施し、次第にスピードを速くしている。次に「あんたがたどこさ」は2人組になり、4分音符の拍でジャンプ、「さ」の部分で前に出る。拍に合わせてカスタネットを打ち、「さ」の部分でタンブリンをたたくように工夫し

た。

クラスⅡ・グループ1の学生6名は、「おお牧場は緑」と「あんたがたどこさ」を選択した。「おお牧場は緑」は、9つのグループに分かれ、それぞれのグループごとに1列に並んだ後、前述のリトミック課題4で示した動作を実施した。「あんたがたどこさ」では、グループごとに輪になり「さ」のところでは好きな動物のポーズをつくる動作を工夫した。クラスⅠとⅡのそれぞれグループ1には、4つの課題を提供したが、「おちたおちた」は両クラスともに選択されなかった。

4. 学生のコメントから見えること

最後（8回目）の授業が終わった後、学生に次の質問項目を含むリアクションペーパーを配布し、記述による回答を得た。

1. 課題について（分かりやすかったか？ 分かり難い場合どこが？）
2. リトミック演習で実施した内容
3. リトミック演習を終えて
 - 3-1. 実施したセッションの中で、子ども（学生）に楽しさが伝えられた点
 - 3-2. リトミックの楽しさが充分には伝わらなかった（反省）点
 - 3-3. 上の楽しさが充分には伝わらなかった点を改善するには、どのようにしたら良いですか？
 - 3-4. リトミックのセッションについて、その他、意見があれば書いてください

上の質問内容のうち、今回のリトミック演習のねらい「子どもたちにリトミックの楽しさを伝えること」にかかわる質問3-1, 2, 3, 4について、クラスⅠグループ1の学生のコメントは、以下の表の通りである。

表4 「質問3-1実施したセッションの中で、子どもに楽しさが伝えられた点」の学生の回答

学生	コメント
1	「あんたがたどこさ」の「さ」のところでは前にジャンプさせることで、リズムや音をしっかりと聞き、ペアの子と言葉をかわさずに同じ動きをすることで体感がうまれるようにしたこと。
2	「げんこつやまのたぬきさん」でリズムカルな言葉と動作を伴い、楽しむことができた。幼児期に実際に遊んでした学生も多く、日本に古くから伝承されてきた唱え遊びの楽しさを改めて伝えられた。「あんたがたどこさ」ではリズムカルに跳ぶ動作をしながら、アクセントの部分で動作を変えることを楽しんでいた。
3	「あんたがたどこさ」の曲中の「さ」の部分で前に出る点。「げんこつやまのたぬきさん」のラストで先生相手にじゃんけんをする点。
4	「あんたがたどこさ」でリズムに合わせてジャンプした時、リズムを感じて二人で楽しそうに活動していた。
5	リズムカルに歩くことの楽しさが伝わったと思う。「あんたがたどこさ」の方は、皆楽しそうに取り組んでいた。
6	「げんこつやまのたぬきさん」は、手遊び自体は一般的なものを扱ったが、最後にじゃんけんを取り入れることで、楽しさを高められたと思う。「あんたがたどこさ」では、全体的にビートに合わせて体を動かす楽しさを伝えられたと思う。
7	体全体でリズムを取る楽しさや、仲間と共に音を楽しむという点。

表4～表7の文中の下線部分は、筆者が注目した言葉である。表の下線部分から「子どもに楽しさが伝えられた点」を次にまとめる。

- (1) 「あんたがたどこさ」では、リズムカルに跳ぶ動作をしながら「さ」のタイミングで前にジャンプさせることで、ビートに合わせて体を動かす楽しさを伝えられた。
- (2) 「げんこつやまのたぬきさん」では、リズムカルな言葉と動作から、伝承されてきた唱え遊びの楽しさが伝えられた。じゃんけんを取り入れることで、一層楽しさを高められた。
- (3) リズムや音をしっかりと聞き、同じ動きをすることで仲間と共に音を楽しむことが伝わった。

表5 「質問3-2リトミックの楽しさが充分には伝わらなかった点」の学生の回答

学生	コメント
1	ペアでのリズム運動だったので、ペアとの息が合わず出来ない子が出てきてしまった。にもかかわらず、ペースをあげたため、途中から入れてあげることができなかったことで、楽しさが伝わらなかったと思う。
2	「あんたがたどこさ」では、ほとんどの学生が楽しんで行っていたが、中にはあまりリズムにのることができていない学生もいた。学生でこのような状況なので、子どもでは難しいと感じてしまう子が多いことが考えられる。
3	「げんこつやまのためきさん」のラストのじゃんけんと「あんたがたどこさ」のリズム・テンポの説明をする際、伝わらない点があった。
4	「げんこつやまのためきさん」は歌詞にあわせたふりだったけれど、ふりの意味がよく伝わっていなかった点。
5	時間が短く、練習する時間がなかったため、上手くできず苦戦している人もいた。
6	全体的にはリトミックの楽しさを伝えることができたと思う。強いて挙げるなら「げんこつやまのためきさん」がシンプルなもののみ扱ったことである。
7	少し内容が難しかったため、中には楽しめなかった子どももいるかもしれない点。

表の下線部分から「リトミックの楽しさが充分には伝わらなかった点」を次にまとめる。

- (1) リズム・テンポの説明をする際、伝わらないことがあり、リズムにのることができていない学生がいた。
- (2) 少し内容が難しかったため、ふりの意味がよく伝わっていなかった。それ故、中には楽しめなかった子どももいるかもしれない点。
- (3) 授業の時間が短く、練習する時間がなかったため、上手くできない学生がいた。

表6 「質問3-3リトミックの楽しさが充分には伝わらなかった点を改善するには、どのようにしたら良いですか？」の学生の回答

学生	コメント
1	保育者が全員前にいたが、死角がないように周りに散らばり、リズムをとってあげれば、子どもたちがどのような活動をしているか見えると思えました。
2	子ども全員にリトミックの楽しさを伝えるには、もっと簡単な動作から取り上げたい。例えば、最初はリズムカルに歩きながらアクセントの部分で手を叩くのが良い。その次にアクセントの部分でフラフープに入るなど、少しずつ難易度を上げて、全員が楽しめるようにしたい。
3	導入や説明の部分でゆっくり丁寧に説明できれば、もっと早く理解できたり、円滑にリトミックを進めることができたと思います。
4	「げんこつやまのためきさん」では、ふりと歌詞が対応していることを時間をかけて説明して、想像をふくらませるようにすると、リトミックの楽しさがもっと上手く伝わったと思う。
5	少し簡単にするとよいかも。速度を遅くするのが良いと思う。
6	シンプルな一般的にみんなが知っている手遊びの後に、少し自分達のアレンジを加えたものを取り入れても良かった。
7	もう少し内容をシンプルにしたり、ボール等を使って簡単なものにする。

表の下線部分から「リトミックの楽しさが充分には伝わらなかった点を改善するには、どのようにしたら良いですか？」に対する回答を次にまとめる。

- (1) 指導者が複数の場合、前だけでなく周りに散らばりリズムをとることで、子どもから指導者がよく見える上に、指導者から子どもたちの活動の様子がよく見える。
- (2) 導入部分はゆっくり丁寧に時間をかけて説明し、リトミックの活動は、簡単な動作から取り上げ、少しずつ難易度を上げて、全員が楽しめるようにしたい。
- (3) リトミックの内容は、簡単なものにする。例えば、ふりと歌詞の対応を時間をかけて説明して、想像をふくらませるようにする。

表7 「リトミックのセッションについて、その他意見があれば書いてください」の学生の回答

学生	コメント
2	各グループそれぞれのねらいに沿ったリトミックのセッションを行っていて、子ども役として全力で楽しむことができた。リトミックへの理解も深めることができて、大きな学びとなった。
3	時間や導入、まとめなど、どのように進めれば良いのかいまいちピンとこなかったです。
5	もう少しセッションの時間に余裕があると良かったかもしれない。
6	今回、歌詞のあるものを扱いましたが、リトミックを「音」と「体」というテーマで分けられたいと思うので、そういった場合どのようなことができるのでしょうか？
7	班員をもう少し少なくしたら、もっとそれぞれの個性が出てくるのかも。

※学生1 および学生4は回答無し

表の下線部分から「リトミックのセッションについて、その他意見があれば書いてください」に対する回答を次にまとめる。

- (1) それぞれのねらいに沿ったリトミックのセッションを行うことによって、リトミックへの理解を深めることができた。
- (2) セッションの時間や導入、まとめなど、どのように進めれば良いのか分からない。
- (3) グループの人数を少なく、またセッションの時間に余裕があると良かった。
- (4) リトミックを「音」と「体」というテーマで分けた場合、どのようなことができるのか。

以上、授業後に配布した質問紙への学生のコメントから注目する内容を抽出した。次章では、次年度の授業を改善する目的で、これらの内容を精査する。

5. 授業改善に向けての考察

本年（平成29年）度より、「保育内容B」の授業構成が変更されたことは2章で述べた。この変更により、授業内容と演習の流れは昨年度以前とは違っている。そこで、リトミック演習のねらいに対する達成度を調べる目的で、授業後にリアク

ションペーパーを配布し学生にコメントを書いてももらった。この調査結果を、次年度への授業改善の視点で考察する。

5-1. 課題について

リアクションペーパーではリトミック演習の内容の前に、学生に提示した課題について質問した。「課題は分かりやすかったか？ 分かり難い場合どこか？」分かり難いかといった質問内容である。

課題が分かりやすかったとの回答では、「知っている曲が多かった（4曲中3曲が既知）」「手遊びとの違いを知ることができた」「お手本の方法がきちんとあったので分かりやすかった」「手遊び（の部分）は比較的やさしく伝わりやすかった」「自分のやりたいものが自由にできたので、これからの教師を目指す過程で役立ちそう」とのコメントがあった。

課題が分かり難いとの回答では、「説明するパートが少しアバウトで、大学生だから見てもすぐに伝わったが、幼児だったら同じようにはいかならないと思う」「『あなたがたどこさ』のフラフープを使う方法のやり方がよくわからず、（ネットで）検索しても出てこなかったもので、少しやり難かった」とのコメントがあった。

課題が分かりやすかった理由の一つが、知っている曲であったから、ということである。クラスIとクラスIIのそれぞれグループ1には、次の4曲の同一課題を提示した。「おちたおちた」「あなたがたどこさ」「げんこつやまのたぬきさん」「おお牧場は緑」である。3. リトミックの実践で述べた通り、この4曲中もっとも知名度が低い「おちたおちた」は、どちらのクラスにも取り上げられなかった。リトミックの実践では、既知の曲が選ばれる傾向があることが分かる。最後の質問項目3-4では、自由記述欄に、課題選択について「知っている曲を選んだ」との記述があった。学生は、知らない曲は選ばない傾向があるため、学生の間で知られていない課題については、教員が歌って示すなどの工夫が必要であろう。

5-2. リトミックの実践内容について

リトミック課題2「あんたがたどこさ」は「即時反応の育成」をねらいとして学生に提示した。歌詞の「さ」の拍で前に出たり、床に置いたフラフープの輪に入ったりすることで、言葉と音楽と身体運動を一体化させた総合的な反応を育てることができる。歌詞に「さ」が出てくる拍は譜例2のように刻々と変化し、始めは予測ができないため困難を感じるが、慣れるとリズムカルな身体の動きに楽しさと達成感を享受することができる。

譜例3 「あんたがたどこさ」の「さ」の拍

※譜例3の①～④は、4分音符を1拍として拍子を数えた数字である。

学生のコメントで「『さ』のところを前にジャンプさせることで、リズムや音をしっかりと聞き、ペアの子と言葉をかわさずに同じ動きをすることで体感がうまれるようにした」は、正に即時反応をより楽しく実感させる工夫である。一方、学生のコメントの中には「あんたがたどこさ」がペアで動いたため、二人の息が合わずに楽しめない人がいた、との反省点がみられた。学生は、この原因を考察しており、息が合わずリズムにのれないうちに「ペースをあげたため、途中から入れてあげることができなかった」と記している。つまり、指導者は子どもたち（授業では学生）を注意深く観察し、リズムにのった身体運動を楽しめているかを確認しながらセッションをすすめることが大切であろう。

「げんこつやまのたぬきさん」を取り上げた活動について、学生のコメントで「伝承されてきた唱え遊びの楽しさを改めて伝えられた」とあった。当曲は、本学で使用中のテキスト（松山

2013）に作詞・作曲者不詳と記載されている。また、270曲の子どもの歌がほぼオリジナル伴奏譜で掲載され、声楽家の評価が高い「日本童謡唱歌全集」（足羽 1993）では「わらべうた」と明記されている。しかし、実際は香山美子作詞・小森昭宏作曲の歌であり、「原曲は愛知県鳳来町（現・新城市）発祥のわらべうたという説がある」（全国大学音楽教育学会編 2013）。「げんこつやまのたぬきさん」がわらべうたではなく、作詞・作曲者が分かっている子どもの歌であることは、「保育内容B」を受講している学生（現3年次生）が1年生の秋に「音楽Ⅰ・Ⅱ」の授業で説明した。学生の記憶には残らなかったと思われるため、次回からはリトミック課題の説明の中で「わらべうたではない」旨、一言添えて理解させたい。「げんこつやまのたぬきさん」を使ってリトミックの実践を行うにあたって、この授業のねらい「子どもたちにリトミックの楽しさを伝える」ための工夫がみられた。この工夫の一例として、学生6は質問3-1のコメントに「手遊び自体は一般的なものを扱ったが、最後にじゃんけんを取り入れることで、楽しさを高められた」と記している。実際のセッションでは、先生役の学生とじゃんけんして勝った人を残すことで、ゲームの要素が付加されて盛り上がった。

学生のコメントの中に、指導者の立ち位置に関する事項が含まれている。学生1・質問3-3の回答に「保育者が全員前にいたが、死角がないように周りに散らばり、リズムをとってあげれば、子どもたちがどのような活動をしているか見えると思いました」との記述があった。指導者が複数いる場合、一か所にまもらず、子どもたちの中に入って周りに散開した方がよい。理由は、子どもたちから指導者の動作が見やすく、リトミックの動きをより速く正確に理解できるからである。一方、散開することで、指導者が子どもたちの様子を細かく観察することができる。授業改善の実践的な示唆と考える。

今回、セッションの時間が短いとのコメントが

みられた。学生5は質問3-2で、リトミックの楽しさが充分には伝わらなかった点として「時間が短く、練習する時間がなかったため、上手くできず苦戦している人もいた」と記している。この文章からはどの部分の時間が少ないのか特定できないが、授業で行ったリトミックのセッションについての設問に対する回答なので、グループ1が実施したセッション全体の時間が短いと理解できる。授業では、1つのグループのセッション時間は、10分以内と指定した。各グループには3~4つのリトミック課題を提示して、その選択はグループにまかせている。「時間が短く～」と書いた学生5のグループは4つの課題のうち2つを選びセッションを行った。次回の授業では、実施する課題の内容にもよるが、場合によっては1つの課題に時間をかけて取り組む方法もあることを説明したい。該当グループの実際のセッション時間を当日録画したビデオで確認したところ、7分12秒であった。10分間を有効に使うための時間の使い方、リハーサルの必要性を説くことも必要であろう。セッションの時間に関する他のコメントは、「もう少しセッションの時間に余裕があると良かったかもしれない」や振り・動きについて「～時間をかけて説明して、想像をふくらませるようにする～」があった。これらのコメントもセッション時間の有効利用を示唆する内容である。

6. おわりに

感性と表現に関する領域「表現」を内容とする「保育内容B」の授業改善を目的に、今年度の授業内容を振り返った。本論では授業後半の内容であるリトミックを取り上げる。学生にはリトミックの授業の始めに、演習のねらいとして「子どもたちにリトミックの楽しさを伝えること」を説明した。授業中の学生の活動を観察するとともに、最終授業後にリアクションペーパーを配布し、学生の取り組みや目標に対する達成度・反省点について調査を行った。その結果、学生の反省点から

次年度の授業を改善する手掛かりとして、次の4点が認められた。

- ①学生に提示するリトミックの課題については、馴染みのない曲の場合、教師が歌って聴かせるなどの方法で周知させる必要があること。
- ②指導者は子どもたちを注意深く観察し、リズムにのった身体運動を楽しんでいるかを確認する。
- ③指導者の立ち位置について、子どもたちから指導者の動作が見やすいように工夫する。
- ④セッションの時間を有効に使うための時間の使い方、リハーサルの必要性を説く。

また、充実した活動ができたという書き込みからは、「リトミックの楽しさを伝える」ために学生が自ら工夫したコメントがみられた。それらの中から3点を紹介する。

- ①「あんたがたどこさ」で筆者が提示した課題では、「さ」の部分でフラフープの輪の中に片足を入れる動作であるが、グループ1の学生はペアでジャンプしながら「さ」で前に跳ぶ工夫をした。
- ②「げんこつやまのたぬきさん」では、先生役の学生とじゃんけんして勝った人を残すことで、ゲームの要素が付加されて盛り上がった。
- ③二人組にして、ペアの子と言葉をかわさずに同じ動きをすることで体感がうまれるようにした。

上の③は、ペアの相手を次々に替えることで、それぞれ違ったリズム感をもつ人と動作を合わせ楽しむととともに、セッションのクラス全体の一体感も生まれる。

本論では、学生のコメントから授業改善のための様々な手掛かりを得ることができた。次期の「保育内容B」のリトミック演習では、これらの手掛かりをリトミック課題の内容および演習の指導に活用して、さらなる授業改善をめざしたい。

引用文献

- 文部科学省. 2017. 幼稚園教育要領〈平成29年告示〉. フレーベル館. p.29～30
- 厚生労働省. 2017. 保育所保育指針〈平成29年告示〉. フレーベル館. p.20～21
- 大谷純一. 2015. 「保育学生の『リズム理解力』と『リズム身体表現力』を高めるリトミック教育の効果」. 『リトミック教育研究』. 日本ダルクローズ音楽教育学会. p.66
- 松山祐士編. 2012. 『こどもの歌名曲アルバム』. ドレミ楽譜出版社. p.95
- 足羽章編. 1993. 『日本童謡唱歌全集』. ドレミ楽譜出版社. p.217
- 全国大学音楽教育学会編. 2013. 『日本の子どもの歌』. 音楽之友社. p.175

参考文献

- 学生に提示したリトミック課題を作成した参考書
板野 平. 2001. 『ダルクローズ教育法によるリトミックコーナー』. チャイルド本社
- 神原雅之. 2006. 『リズム&ゲームにどっぷりリトミック77選』. 明治図書
- 石丸由理. 2011. 『リトミック百科』. ひかりのくに

